菊川町埋蔵文化財調査報告書第49集

西袋（にしぶくろ）遺跡

――（主）吉田大東線地方特定道路改築工事に伴う確認調査――

1997

静岡県菊川町教育委員会
静岡県袋井土木事務所

例　　言

1．本報告は菊川町教育委員会が静岡県袋井土木事務所より委託事業として実施した西袋遺跡の発掘調査報告書である。今回の発掘調査は、遺跡の所在及び範囲を確認することを目的とした。

2．発掘調査は、平成９年10月28日より開始し同月31日に終了した。調査面積は、61㎡である。

3．発掘調査は以下の体制で実施した。

調査主体	菊川町教育委員会
調 査 員	塚本　和弘（学術文化係文化財担当）
作 業 員	堀内　初代　三ッ井しの　伊藤せつ子　福井　京子 伊藤　初恵　織部　節子

4．本書の執筆及び編集は、塚本が行なった。

5．遺物整理にあたり松井由美子、堀内初代の協力を得た。

6．本調査及び本書刊行に関する事務は、菊川町教育委員会生涯学習課が行った。

菊川町教育委員会	教育長	鈴木静夫
生涯学習課	参事兼課長	落合偉久
学術文化係	係長	石川睦美
文化財	担当	塚本和弘

7．実測図・写真及び出土遺物は、教育委員会が保管している。

目　　次

第１章　はじめに……1
第２章　調査成果……2
第３章　まとめ……5

挿図目次

第１図　調査地点位置図
第２図　第１グリット平面図
第３図　第２グリット平面図
第４図　第３グリット平面図
第５図　第４グリット平面図
第６図　出土遺物

図版目次

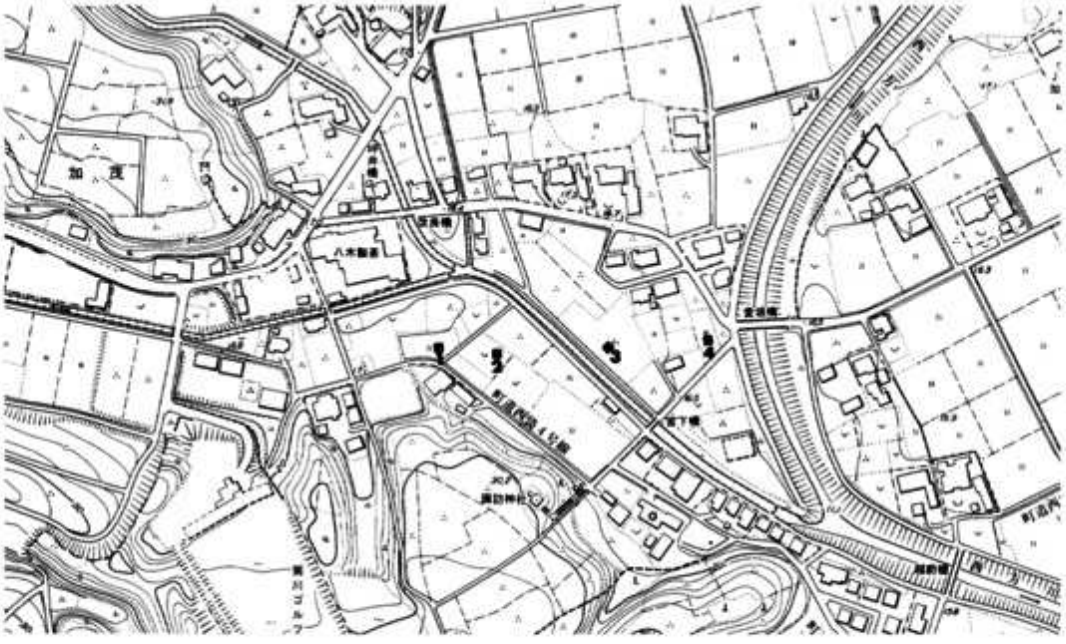
図版１　調査風景
図版２　第１グリット完掘状態
図版３　第２グリット完掘状態
図版４　第３グリット完掘状態
図版５　第４グリット完掘状態
図版６　出土遺物

第１章　はじめに

西袋遺跡は、菊川町加茂地区西袋に所在する。加茂地区は、町の南西部に位置し南流する菊川とその支線西方川によって形成された沖積平野が広がる。地区の西側には、低い丘陵が南北に延びている。西袋ムラは、加茂地区でも西に位置し西は内田地区と境を接し丘陵部となる。また、中央部には南北に西方川が流れる。西袋の丘陵地では、茶が栽培され、沖積地には田畑が広がる農村地帯である。

この地域での遺跡分布状況は、沖積地に弥生時代の西袋遺跡や隣接して弥生時代を代表する白岩遺跡がみられるほか、丘陵部に縄文時代早期から中期の市ケ原遺跡が所在している。これらの遺跡は、開発によって採集された遺物によって遺跡の所在が明らかになったもので性格や規模は不明である。

近年、加茂地区は急激な宅地化が進み田畑は埋立てられている。その結果、現状の県道では道路幅が狭いうえ見通しが悪いなど交通に支障を来している。さらに、現在の道路は南北の交通アクセスに比べ東西を結ぶ道路は比較的小規模となっている。これらの問題を解決するために、県道高瀬菊川線を改築する計画が生じた。計画では、加茂工業団地から路線は東へ向かって西袋ムラを通り地方主要道掛川浜岡線を結ぶものであった。しかし、計画路線内には周知の遺跡である西袋遺跡が分布していたためこの取扱いについて袋井土木事務所、県文化課、町教育委員会で協議を行った。協議の結果、遺跡の所在を明確にするために確認調査を実施することとなった。調査は、町教育委員会が行い費用は袋井土木事務所が負担することになった。



第１図　調査地点位置図

第２章　調査成果

確認調査は、計画用地内で茶畑等耕作されている地点ついては極力調査対象地より除きグリット設定することとなった。グリットは、４箇所設定し重機を用い表土及び耕作土を除いた後人力で遺構の検出作業を行う。また、検出された遺構は性格が明らかなものについては最小限度の掘削に出来るだけ留めた。

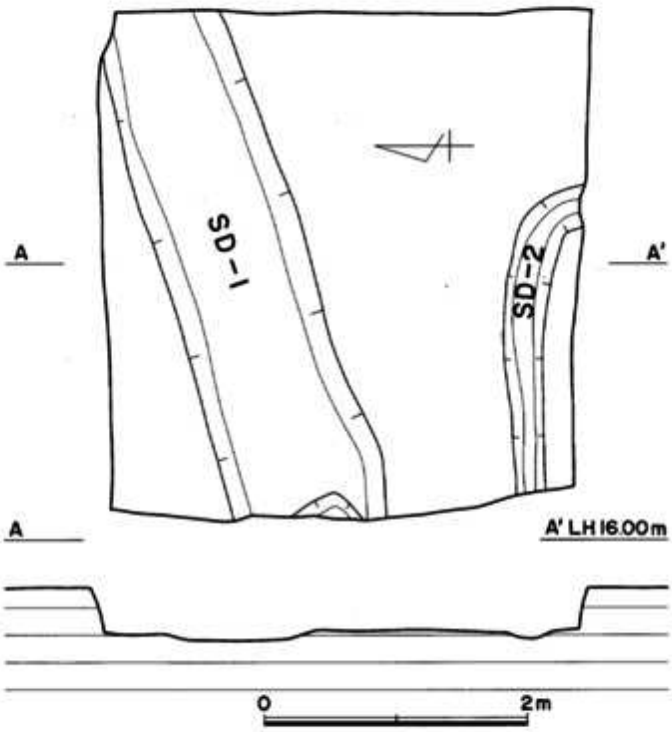
調　査　風　景

第１グリット　調査区の最も西の地点に位置し16㎡を掘削する。遺構は、表土より30㎝下で遺構検出を行い溝と柱穴を検出する。

ＳＤ－１は、調査区の北側で東西に斜めに延びる。大きさは、幅110㎝深さ５㎝で底は平らである。覆土は灰色砂質土で混ざりはない。遺物は摩滅した土師器が数点出土しているが計測不可能なもので時代も明らかでない。

第１グリット完掘状態

ＳＤ－２は、調査区の南側で逆Ｌ字形となっている。規模は幅20㎝～30㎝で深さ５㎝を測る。覆土は、灰色砂質土である。遺物は出土していない。柱穴は、ＳＤ－１の西端に確認されている。平面形は方形に近く検出面からの深さは３㎝と浅い。各検出された遺構は、出土遺物が無く年代や性格は明らかではないが覆土の状態から近世以降のものではないかと判断される。また、溝はＳＤ－１が土地の区画する境の排水溝と考えられる。ＳＤ－２は、ＳＤ－１よりも

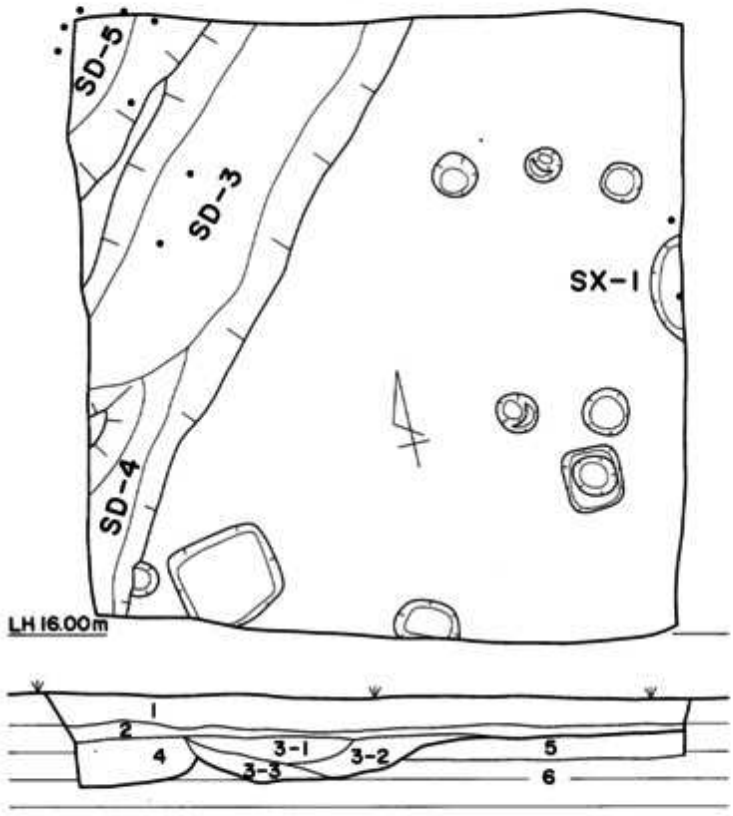


第２図　第１グリット平面図

小規模であるが小区画の区画溝であろう。

第2グリット　小字で元屋敷と呼ばれる地点である。調査区では22㎡を掘削する。表土より25㎝下に黄茶褐色砂質土層(5)の基盤層が見られ、比較的残りの良好な地点である。遺構は、基盤層に掘り込まれており調査区の西側に溝、中央から東側に柱穴が検出されている。溝はＳＤ－３を中心に平行しＳＤ－５が見られ、ＳＤ－４はＳＤ－３に合流する。ＳＤ－３は溝の中では、規模は大きく幅140㎝深さ20㎝で南北に斜めに走る。この溝の覆土は、暗灰色(3-1) 黄灰色(3-2) 灰茶褐色(3-3) の三層に分けられ土器や炭化物が出土している。柱穴は、平面形は円形か楕円形を呈する。大きさは、20㎝～30㎝で深さ30㎝を測る。ＳＸ－１は、調査区の東面の中央に位置する。検出された大きさは径70㎝壁面に板状のものが見られ井戸遺構の可能性を秘めている。覆土より山茶碗の破片が出土している。出土遺物は、全て土器で今回の調査区の中では最も量が多い。土器はＳＤ－３(2～4・11・16・17)、ＳＤ－５(6～8・13)、ＳＸ－１(1・14)、覆土(5・9・10・12・15)から出土している。1は山茶碗の底部で13世紀。2は志戸呂天目茶碗で鉄釉掛の17世紀のもの。3は瀬戸天目茶碗で17世紀後半であろう。4は肥前の染付碗の口縁部で18世紀。５は美濃の灰釉丸碗で17世紀末。6は瀬戸鎧茶碗で体部に螺旋状の連続文様がみられ19世紀前半のものであろう。7は美濃湯呑の18世紀後半。8は志戸呂鉢で17世紀の製品。9は18世紀後半の瀬戸小碗である。10は美濃仏餉具の杯部で18世紀後半。11は美濃黄瀬戸鉢で体部内面に波状文が施され

第２グリット完掘状態

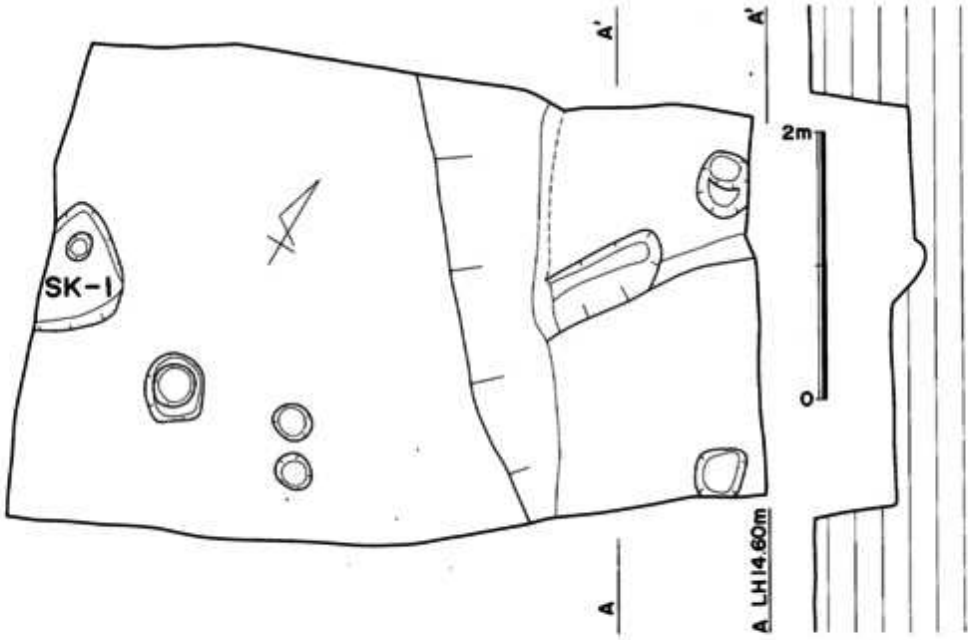


第３図　第２グリット平面図

る18世紀後半の製品である。12は美濃鉄釉灯明皿で19世紀前半。13は志戸呂の製品。14・15は志戸呂擂鉢で14は大窯期16世紀後半で15が17世紀以降であろう。16と17はロクロ成形のかわらけである。遺物の年代から溝は17～19世紀前半のものと考えられる。柱穴は、溝の年代や覆土の遺物から近世のものと判断される。また、ＳＸ－１は柱穴や溝に比べ少し古く中世に遡る可能性がある。

第３グリット　調査区内を南北に走る尾花川と西方川の間に調査区は位置する。調査面積は18㎡で調査区の中央で土地の区画による掘削で段となる。遺構は表土より50㎝下で、精査し柱穴と土坑を検出する。ＳＫ－１は調査区の西壁面中央に位置し、平面形方形を呈する。大きさは、一辺80㎝深さ50㎝で長さ20㎝程の河原石

第３グリット完掘状態

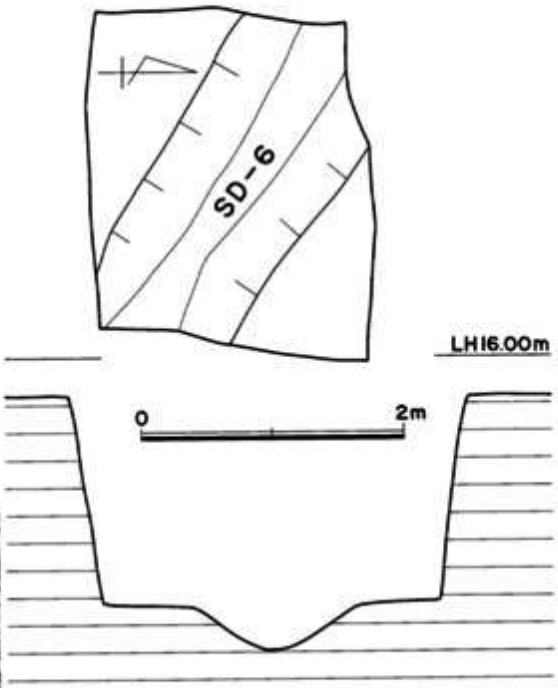


第４図　第３グリット平面図

が詰っていた。覆土内よりかわらけ(20)と須恵器(18)が出土している。柱穴は、径30㎝深さ15㎝の規模で建物として並ぶものはなかった。また、調査区の中央から西側の検出面は茶褐色で硬く絞った土となっている。出土遺物は、摩滅したかわらけや近世陶磁器の破片がみられ計測できたのは18～20の３点である。18は須恵器の坏身の底部で 8世紀の製品であろう。19は山茶碗期の小碗の口縁部で12世紀の後半か。20はロクロ成形のかわらけで、底部から体部にかけ直線的に立ち上がる。年代についは、不明な点も多いが中世後期ではなかろうか。検出された遺構の年代については、ＳＫ－１

は特徴より中世墓の可能性が考えられる。柱穴は、中世の時期のものであろう。

第4グリット　調査区では、最も東に位置し西方川に近い。周辺は宅地化が進み田畑が埋立てられ地盤が高くなっている。この調査地点でも 140cm程埋立てられていたため調査面積は底では5㎡と狭い。遺構は、調査区の北西コーナーから南東コーナーに向かってまっすぐ溝が検出された。ＳＤ－６は、幅130cm深さ30cmを測る。側面は外側に強く広がり断面の形状が皿状となる。覆土は茶褐色土で炭化物を含む。溝の底面は東に向かって遺構の年代は、覆土などから近世以前ではなかろうか。



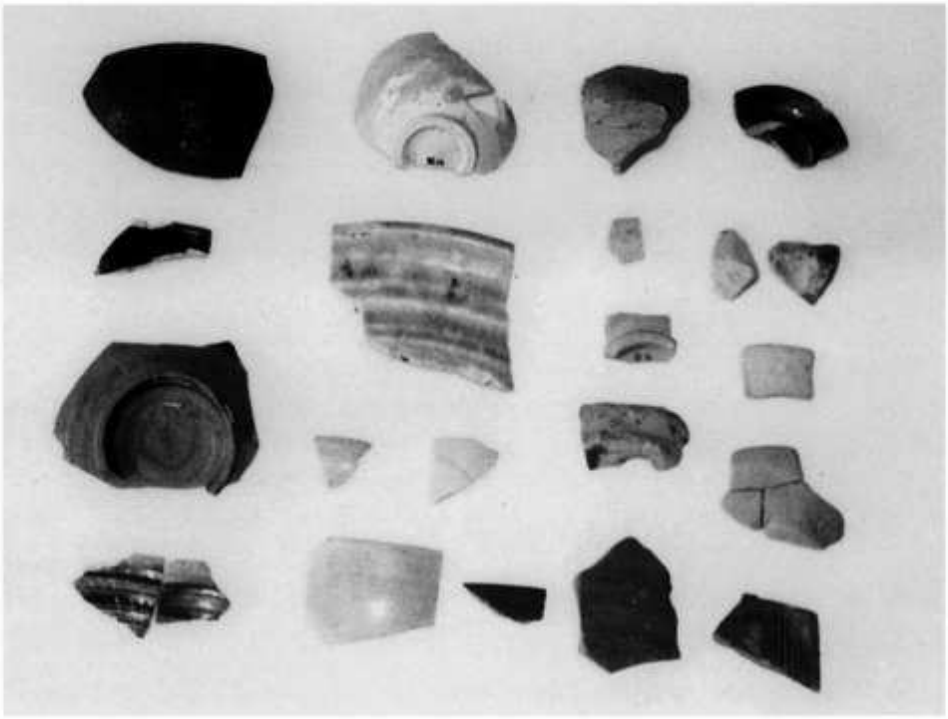
第5図　第4グリット平面図

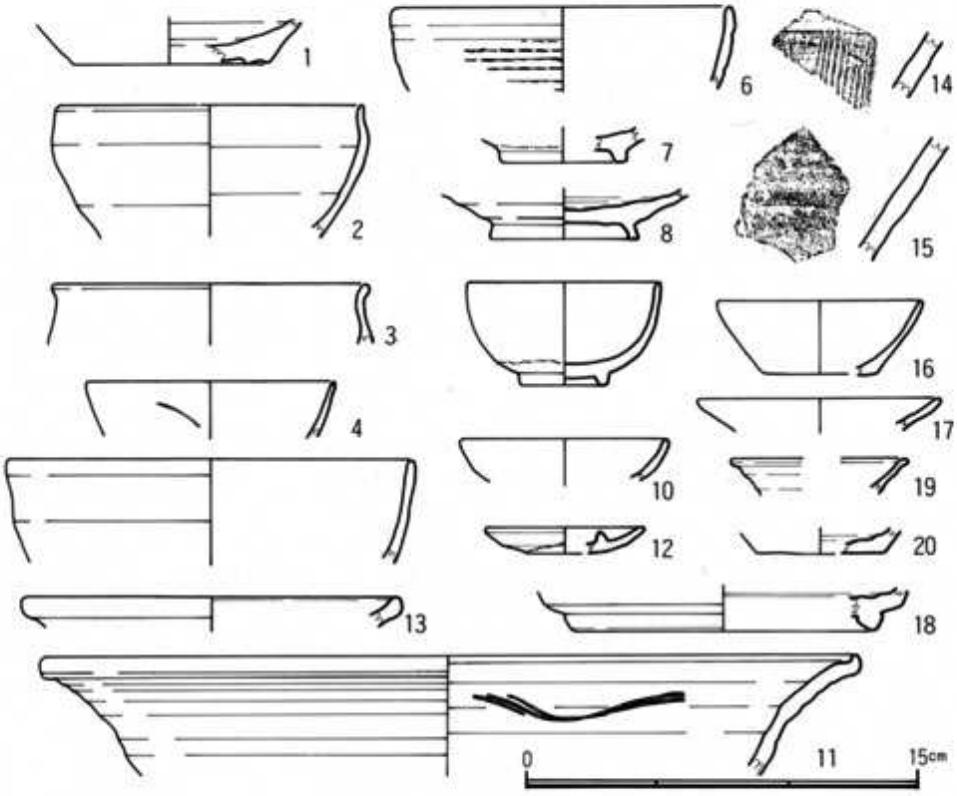
第4グリット完掘状態

第3章　ま　と　め

今回の調査は、調査区の設定にあたりかなり制約された中での調査であったが第2グリットでは近世の屋敷跡と考えられる遺構が検出された。この地点では、近年まで家があったとの地元の古老の話であった。但この屋敷がいつ頃から存在したのかは明らかでないが、今回検出された遺構がそれに関連する可能性が高く近世史の資料としては有効的なものとなろう。第3グリットでは、中世の時期の遺構がみられ尾花川を境に遺構の状況が違うようである。西袋遺跡は、本来弥生時代の遺跡として遺跡地図に記載されているもので周辺の白岩遺跡の影響をうけた集落と考えられているが、今回の調査では覆土からはその痕跡はほとんど見あたらなかった。しかし、第3・4グリット周辺では、上面の遺構を保存するため下層の確認は避けたため今後の調査で弥生時代の生活面が発見される可能は残る。

おわりに、本文をまとめるにあたり瀬戸市埋蔵文化財センター藤沢良祐氏と旧地主八木敏雄氏からご教示を戴いた。末尾ながらここに記して深く感謝申し上げます。





第6図

報告書抄録

ふりがな 書名	西袋遺跡群発掘調査報告書
副書名	(主) 吉田大東線地方特定道路改築工事に伴う確認調査
巻次	
シリーズ名	菊川町埋蔵文化財報告書
シリーズ番号	第49集
編著者名	塚本和弘
編集機関	菊川町教育委員会
所在地	〒439 静岡県小笠郡菊川町堀之内61 TEL 0537－35－0925 36－3694
発行年月日	西暦 1997年12月17日

ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号				㎡	
西袋遺跡	小笠郡菊川町 加茂字西袋	22446	114	34度 44分 21秒	138度 06分 40秒	19971028 ～ 19971031	61㎡	道路改築に伴う確認調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西袋遺跡	散布地	中世～近世	溝 5箇所 土杭 1箇所 柱穴 数箇所	須恵器製、陶磁器 山茶碗、かわらけ	

西袋遺跡

－(主)吉田大東線地方特定道路改築工事に伴う確認調査－

編集・発行　静岡県菊川町教育委員会

印　　刷　陽光社

発行年月日　平成9年12月17日